

●主旨 家庭や地域の教育力が低下している中、次世代の主役となる子どもたちを健やかに育てていくために、子どもたちに様々な体験を提供することの重要性を指摘するとともに、多摩26市の共同事業として、(仮称)「多摩子ども体験塾」の開講を提唱する。

第1章

【現状】

都市化、核家族化、少子化、家族形態や生活様式の多様化、価値観の多様化、社会環境の変化  
社会全体の規範意識の低下、高度情報化、疑似体験の増大による実体験の不足

家庭

家庭の中で人間関係を学んだり、社会性を身に付けることが難しくなっている。

地域

従来の「地域」が弱体化し、多様な人々の生き方や社会のルール、郷土愛を学ぶ機会が減少している。

学校

新たな教育課題への対応、親からの過度の期待、地域の教育力低下などから、大きな負担を抱えている。

社会環境

街中やインターネット空間等に溢れる悪質で有害な情報等は、子どもたちの意識や行動に大きな影響を与えている。

子どもたちが社会性や自立性を学び、感性を磨く機会が減少

自分で考え、行動する力や忍耐力が不足している  
感動することを忘れている  
他人に対する思いやりに欠ける

子どもたちが増加

第2章

【取り組みの方向】

1. 子どもたちの健やかな成長を支える家庭、地域、学校等の取り組み… 家庭、地域、学校などがそれぞれの役割を果たすと同時に、有機的に連携。
2. 子どもたちに安心と安全を導く社会環境づくりへの取り組み… 非行や犯罪、事故から守る社会の抑制機能の構築と社会環境の整備・改善。
3. 子どもたちの社会性、自立性を育み、心豊かに育つための取り組み… 交流や体験を通じて、様々な人々や自然、社会、文化と関わり、ふれあえる場と機会を創出。

① 社会性、公共性やたくましさを育む「場」づくり  
人と人との交流を促進する  
自然とふれあえる  
社会と関われる  
歴史・文化に親しめる  
視野を広める

「場」づくり

② 夢と希望を育む「機会」づくり  
芸術、文化に触れる  
科学に関心を持たせる  
スポーツに親しめる

「機会」づくり

③ 活動基盤の充実  
地域施設の充実、活用  
身近な自然環境の保全・整備  
人材育成とネットワーク

子どもたちは地域社会が育むという観点に立って、多摩26市において、多種・多様な施策を実施。しかし、今日の多様な市民ニーズに応える必要性や厳しい財政事情から、子どもたちの感動体験は、まだまだ不十分であったり、縮小される事情がある。

家庭、地域、学校、一自治体では取り組めない、「より高度で、大規模、広域的な感動体験事業」を26市が連携・連合して、子どもたちに提供する必要性

第3章

【共同事業の提案】

(仮称)「多摩子ども体験塾」の開講を提唱

◆ (仮称)多摩子ども体験塾 … 多摩26市が共同して実施する感動体験事業の総称であり、運営・実施母体

《基本理念》

- 高度で、大規模、広域的な感動体験事業の提供。
- 責任感や自立心、思いやりや社会のルールを身に付ける場の提供。
- 親子のふれあいを大事にし、子どもが心豊かに夢や希望を育むことができる機会の提供。

《運営・実行体制》

- 市長部局と教育委員会の連携のもと、広範で重層な運営・実施本部体制、機動的な事務局体制の構築を検討。
- 多摩地域及びびらじょ地域の町村へも連携・連合を呼びかけ。

《活動》

- ① 共同体験事業の実施  
芸術・文化体験(オーケストラコンサートほか)  
科学体験(サイエンスショーほか)  
自然体験、スポーツ体験、国内・国外交流事業等
- ② 自治体への助成  
それぞれの自治体が実施する「モデル的」な体験事業に対して、財政的な支援を行う仕組みを提唱。

共同事業及び助成制度は概ね3年間程度の実施を目途とし、その後は、多角的な検証のもと、継続の可否等を検討。